幼稚園の前途

寺田勇吉

（一）近頃の新聞並に雜誌等に於て、我國幼稚園の改善方針なるものが、文部當局者及教育特志家の談なりとして掲げられ、既に教育時論にも前號の時事彙報欄に、殆んど同樣の記事が有る。これらを讀んで見ると、文部當局者及び教育特志家等の一部が、如何なる改善意見を抱かるゝかを、窺ひ見ることが出來るのである。而して我輩も亦、我國に幼稚園の必要なるを認め、自ら管理してをる九段坂下の精華學校内に幼稚園を設けて、多數の幼兒を保育してをるのである、隨つて平素外國の情況及我國の事情等に就いても多少調査してをるのであるが、我輩は教育時論前號の記事に感服せぬものである。從つて少しく所見を述べてみようと思ふ。

教育時論に於ける記事中の改善方針の主なるものは、

一、外國の幼稚園は下流社會の兒童を以て充され、上流社會の兒童を收容せざること、（家庭教育に依るが故に）

二、我國の幼稚園は、殆んど悉く上中流の兒童のみなること

右に依り兒童は概ね附添人を伴ふを以て、學校風を廢し家庭風に化せられたること

三、我國にても主として下流社會の幼兒を收容することに改善すべき事

などが有つて、新聞雜誌等に現はれたものを綜合して見れば、當局者及教育特志家の意見なるものは、

上中流幼兒童の保育をば家庭にて爲さしめ、幼稚園にては下流社會の兒童を收容する樣に改善すべし

といふにあるらしい、尤もこれは新聞雜誌記者の誤聞誤解も混入してゐるかも知れぬから、直ちに當局者及教育特志家の意見と見ることは出來ぬが、世間にはかくの如く傳へられてをるから、世の惑を解く爲に一言して見ようと思ふのである。』

（二）新聞雜誌の該記事に依れば、歐洲には我國に於ける如き上中流社會の幼兒を收容する幼稚園は無い樣に書いてあるが、それは全く誤りであつて、例へばドイツ國最近の調査に依れば、彼全國に於ては幼稚園は比較的に少いのであるが、ソレでも上中流社會の幼兒を收容してをる幼稚園が、目下四百個ある（我國には三百個許）。此他に貧民の兒童を收容する托兒塲或は小兒保育所とでも名付くべきものが澤山にあるのである、これは毎日職工となつて稼ぐ婦人が、毎朝出掛けに幼兒を其所に連れ行きて托し置き夕刻歸り掛けに又其所に寄つて、幼兒を伴うて歸宅するのであつて、此爲めに幼兒は遊戯や唱歌を覺える、又母親が不在でも危險も無く、その他惡事を行ふたりすることもなく、心身が健全に發育するのである。次にクリッペといふ名稱で、二三歲位の幼兒を世話する塲所が有り、又キンデルブーソルアンスタルトというて三歲から學齡までの幼兒を世話する所もあり、かくて此種下流社會の幼稚園は全國に三千もあつて、此所に保育を受けてをる子供は二千餘萬人の多きに達してをるのである、これを以て觀れば、新聞雜誌の記事は、彼の四百の上中流幼稚園の有ることを知らずして、單に此多數の幼兒保育所を指したものであらう。

（三）而して我國に於ても、此如下流社會の幼兒を預る幼稚園を設立するの必要は勿論、甚だ緊切のことである、乍併我國目下の狀況に於ては其經費の出所に困るのであつて、ドイツや其他の國に於ては、從來多くは教會とか、婦人會とか、其の他の會合、或は特志家の寄附等の慈善金に依つて成り立つてをるからして、隨つて多くは私立事業である、然るに近來に至りては、市町村でも此種幼稚園をば、公費を以て設立するとか、或は補助金を與へるといふことが、漸々增加して來たものである。而して歐米諸國は比較的に富めるを以て、慈善金等の寄りも良し、且つ又個人主義であるからして、死後の遺產等をば、如此事業に寄附する人が少くないのである。然るに我國に於ては比較的に國民が貧乏であるからして、慈善金などの寄り方も少く、又家族主義なる所からして、遺

産などの寄附も殆んど無いのである、併し稀には學校の爲に金品等を寄附する特志家も無いではないが、それらは主として高等の學校に對するもので、小學校とか幼稚園とかは世人から輕視せられ隨つて下流社會の幼兒を保育する所などに、金を出す人は至つて少いのである、我輩は前にもいふ通り、此種の幼稚園の心要をば充分に認めるものであるが、其經費の出所が甚だ乏しい所からして其設立も亦甚だ困難の事であると思ふ。

（る）サテ右の如く托兒場とでもいふべき幼稚園の必要を認めると同時に、現に存在してをるやうな、上中流の幼兒を收容する幼稚園も亦必要と認めるものであつて、これは無用である、上中流の兒童の保育をば家庭に一任すべしといふが如きは誠に今日の我國の家庭が一般的に如何なるものであるかを知らぬ者の意見であると思ふ。今日我國上中流の家庭の母たる人は、これを歐米に於けるそれに比べて見ると、遺憾ながら其教育が甚だ劣てをつて、歐米上中流の一般の如く、家庭に於て其幼兒に、幼稚園的教育を施すの能力が乏しい、

但し歐米の母たる人は其子供に餘り注意せず、又子供に對して嚴酷に過ぐるといふ一般的缺點があつて、此點に於て我國の婦人は子供を取り扱ふことが親切周到なるの美點あることをば、我輩も亦充分に認める所である、乍併我國の上中流の婦人の多くは、未だ正式の充分な、教育を受けをらずして、資財豐に且つ閑暇なる餘り、或は愛に溺れて我儘に生長せしめ、後日如何ともすべからざる我慢放恣の子供に育て或は干渉の其度に過ぎ、無氣力なる子供に養成する等の缺點が有り、或は甚たしければ、如何はしい稼業を爲した婦人で、教育など、發言する資格すらも無いものもある（歐米にては、我國の如く、如何はしい稼業を營んだ婦人が社會の上中流に立つといふことは、決して無いのである）。次に歐米の家屋の構造は適當に出來てをるが、我國の普通の家屋では迚も幼稚園的のことが出來ぬ、即は室内で活潑なる運動、遊戯をするとかといふことは出來ぬのである。次は又歐米では家庭教師が中々良好であつて、教師自身が教師として充分の實力を有し、相當の品位態度

を保つのみならず、第一の幼兒の父母亦教師として相當の尊敬を拂ふのであるからして、彼國の上流社會に於ては、其家庭に於て家庭教師を聘して立派に幼稚園的教育を施し得るものである。然るに現今我國に於ける家庭教師なるものは學生の通學の餘暇とか、或は何とかいふものをば、子供の復習の手傳として雇うて置くので、父母を始め子供までこれを雇人扱ひを爲し、決して教師としての適當なる取扱を爲ない、之を以て家庭教師は幼稚園に於ける保姆の如き充分なる保育を爲すことが出來ぬのである、以上を概言すれば、我國の家庭に於ては——少なくとも現今一般の上中流の家庭に於ては——幼稚園的の仕事は出來ないのである、故に亦今日の如き、上中流の幼兒を收容する幼稚園が必要である。

（五）次に幼稚園が學校的ならずして家庭風に化することは、如何なる種類の幼稚園でも必要であつて、我輩の意見では幼稚園が家庭風なればこそ幼兒の收容に任じ得るのである。幼稚園の幼稚園たる本分は、これに依りて可能であるとするのである、幼稚園では學校の如く、智識を與へるといふ必要はない、幼稚園では良習慣を興へ、共同心を發達せしめ、體育を盛にするといふことに重きを置いてをる、これには學校的なる必要が無くして、是非共家庭風でなくてはならぬ、而して我輩の管理してをる精華學校の幼稚園は、此の主旨に據つて保育してをる、加之東京女子高等師範學校の附屬幼稚園は我國に於ける幼稚園の模範として經營せられてをるものであるが、亦同樣の主旨であるやうに思ふ、而して或所には、實に學校風の幼稚園が有るかも知れぬが、若しさういふものが有るとすればそれをこそ一日も早く改善すべけれと信ずるのである。